

緊急アピール

鹿島鉄道存続のために、2年間の公的支援継続を!

来年4月1日での廃止届が出された今、鹿島鉄道は廃線の危機に直面しています。鉄道の存続は、9月中にも予想される鹿島鉄道対策協議会の結論にかかっています。

鹿島鉄道は83年前の大正11年に地域の方々の出資で会社が設立されてから、公共交通機関として地域の発展に大いに貢献し、人々の生活に欠かせない存在となってきました。年々乗客が減少しているとはいえ、年間およそ80万人、毎日2千人以上が利用しています。私たち中学 高校生が毎日通学できるのも、鹿島鉄道のおかげです。

鹿島鉄道存続のために、私たち「かしてつ応援団」も地域の方々と共に、4年前から「未来へ走れ! 鹿島鉄道」を合い言葉にして、地域で開催されるイベントでの宣伝活動、駅のクリーン作戦やデコレーション、鹿島鉄道への提案活動などに取り組んできました。「鹿島鉄道応援募金」の呼びかけには280万円もの寄付が集まり、ラッピング列車の運行、夏休み限定の中高校生向け500円フリーきっぷの販売などを行うことができました。

しかし、私たちや沿線市町村 県の通勤 通学者への利用促進の取り組みは十分とはいえ、乗客の増加には必ずしも結びつきませんでした。5年間の公的支援の期限切れ(平成19年3月)を前に、再び存続問題に直面するのは明らかでしたので、私たち「かしてつ応援団」は鹿島鉄道存続のために「公的支援の継続と新たな再生計画の作成」を鹿島鉄道対策協議会に求める署名運動を展開し、5月11日に1万6553筆を提出しました。署名活動の中では「なくなったらどこへもいけなくなる」「通学できなくなる」「地域の財産だから残したい」など存続を望む声が多く寄せられました。

私たちは地域の公共交通の維持・発展に責任を持っている茨城県と沿線市でつくる「鹿島鉄道対策協議会」に当面2年間の公的支援継続を訴えます。

鹿島鉄道対策協議会への3つのお願い

- ① 高校1年生が卒業するまで、最低2年間公的支援を継続して下さい
- ② 2年の間にに関係者の知恵と力を結集して、再生計画を作成して下さい
- ③ 百里空港などと共に地域の財産として鹿島鉄道を活用して下さい

かしてつ応援団の3つの約束

- ① 通学利用者を増やすために努力します
- ② 学校の様々な活動で、鹿島鉄道を活用します
- ③ 鹿島鉄道の活性化に向けて努力します

平成18年7月26日

かしてつ応援団(鹿島鉄道沿線中高生徒会連絡会)